



国 語， 数学Ⅲ・数学C 問題

はじめに，これを読みなさい。

1. 解答用紙には，あなたの受験番号が印刷されています。受験番号が正しいかどうか，受験票と照合して確認し，氏名を記入しなさい。
2. 「国語」の問題は裏面から始まります。
3. この問題冊子は，「数学Ⅲ・数学C」については表面から8ページ，「国語」については裏面から20ページあります(表紙の次の白紙2ページはメモ用紙として使用してかまいません)。必要な科目を選択して解答しなさい。
4. 解答用紙の「解答科目マーク欄」にマークし，「解答科目名記入欄」に解答する科目名を記入しなさい。マークされていない場合，又は複数の科目にマークされている場合は，0点となります。
5. 解答は，すべて解答用紙の解答欄にマークしなさい。
6. 1つの解答欄に2つ以上マークしてはいけません。
7. 解答は，必ず鉛筆又はシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入しなさい。
8. 訂正する場合は，消しゴムできれいに消し，消しくずを残さないようにしなさい。
9. 解答用紙は，絶対に汚したり折り曲げたりしてはいけません。
10. 解答用紙は持ち帰らないで，必ず提出しなさい。
11. この問題冊子は必ず持ち帰りなさい。
12. 試験時間は60分です。
13. (数学Ⅲ・数学C) 分数形で解答する場合は，既約分数で答えなさい。
14. (数学Ⅲ・数学C) 根号を含む形で解答する場合は，根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えなさい。
15. マーク記入例

良い例	悪い例
	

れ

国 語 問 題

(解答番号 1～29)

はじめに裏返して、表紙の注意事項を必ず読みなさい。

1. 「国語」の問題は20ページあります。
2. 「数学Ⅲ・数学C」の問題は反対の面にあります。

(一) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

そもそも「コミュニティ」とは何だろうか。

大きく見れば、コミュニティというものは二つの側面をもっている。

一つは「情緒的な側面」。これは文字通り、人間はコミュニティに属することで、情緒のないし心理面での安心感や安定、あるいは自己確認を得るということだ。もちろん、そこに様々な「愛憎」や抑圧など「ネガティブな面」が生まれることもある。

もう一つは「情報」としての側面。例えばコミュニティとは、「何らかの「情報」あるいは世界観(意味の体系や秩序)を共有する集団」ということに他ならない。少し考えてみれば明らかのように、実は「コミュニティ」と「情報」とは不可分の関係にあるのだ。

そこで、コミュニティと創造性、あるいは文化といったテーマを考える手がかりとして、ここではまず人間にとって「情報」とは何かという論点を考えてみよう。

この話題については、かつてカール・セーガンが提起した次のような視点が参考になる(カール・セーガン『エデンの恐竜』長野敬訳、秀潤社、一九七八年)。

a、人間にとって情報は大きく「遺伝情報」と「脳情報」に分けることができる。前者はいわゆるDNAに組み込まれた情報であり、これは他でもなく遺伝子(という情報メディア)を通じて親から子へとバトンタッチされていく。その中身は、生物学的組成に関する情報がまず重要だが、一定の行動パターンに関する情報も含まれている(たとえばネコが毛づくろいをするのは親に教えられるものではなく、遺伝情報の中にその行動パターンが組み込まれている)。

b、生物が複雑になっていくと、この遺伝情報だけでは「不十分」になってくる。つまり、必要な情報の容量ないし容器がDNAでは間に合わなくなってくるのだ。

そこで遺伝情報に加えて、生物は「脳」という情報の貯蔵メディアを作り出し、「脳情報」を通じて様々な情報の蓄積や伝達を行うようにした。この場合、脳情報の伝達は、生物の個体間の様々なコミュニケーションによって行われる。たとえば親が子に様々なことを教えるというのがその原初形態であるが（これは知識の伝達のみならず、様々な「ケア」も含まれる）、先ほどの遺伝情報と違って、脳情報の場合は親子といった血縁関係を超えた個体の間でも伝達が行われ、しかもそれは一方向的な伝達ではなく相互的である。

そして、こうした中で形成されるのが個体間の様々な形の「コミュニティ」に他ならない。ここで冒頭に述べた「情報とコミュニケーション」という話題が浮上することになる。

c、こうした脳情報は生物進化の中で次第にその比重が大きくなり、哺乳類において大きく拡大することになるが——「哺乳」ということ自体が個体間コミュニケーションの発達を示している——、言うまでもなくそれが最高度に展開されたのが人間という生き物である。また、脳情報の中で飛躍的に大きな意味をもったのが「言語」（特にシンボリックな意味を担う象徴言語）であったことも確かである。

さて、先ほどカール・セーガンにふれたが、セーガンの議論のおもしろい点は、このようにして脳情報を大きく進化させた人間だが、しかしその歴史の展開の中で、その脳すら「容量不足」となり、やがて人間はさらに新たな情報の「媒体」を作っていったという把握である。すなわちそれは、「文字情報」とその蓄積手段としての書物、ひいてはそれを保存する図書館などであり、これは「文化」とももちろん関わるが、それはいわば脳にとつての「外部メモリー」のようなものと言えるだろう。そして、やがてこれでも不十分となり、コンピュータが現れ、デジタル情報の蓄積や伝達が展開していったのが20世紀後半ということになる。

まとめると、「遺伝情報↓脳情報(含言語)↓文字情報↓デジタル情報」という形で、何重かの「外部化」を行ってきたのが人間ということになる。そしてもう一つ重要なのは、そのこととパラレルに、つまり「情報」の形態の進化とパラレルに、人間における「コミュニティ」の形態ないし様式が大きく変化していったという点だ。

ここでのメインの話題ではないが、いわゆる「ネットコミュニティ」が人間にとってどういう意味をもつかは、こうした大きな視野においてとらえられる必要があるだろう。

さて、以上のような基本的な把握を踏まえて、こうした「情報とコミュニティの進化」を人間の歴史の大きな展開の中でとらえ返してみよう。

ポイントはまず、人間の歴史の流れを大きく「拡大・成長」と「成熟化ないし定常化」のサイクルとしてとらえるという点だ。

この場合、いわゆる①狩猟採集社会（ホモサピエンスの登場した約二〇万年前）、②農耕社会（約一万年前）、③産業化（工業化）社会（約二〇年前）という三つの段階があり、それぞれにおいて拡大・成長期（前半）とその成熟・定常化の時期（後半）が区分される。つまり、人間の歴史は大きく三回の拡大・成長と定常化のサイクルとしてとらえることができる。なおここで言う「拡大・成長」とは主として人口や経済活動の規模に関するものだ。

そして、これは私の仮説だが、それぞれの段階の前半から後半に至る時期は、いわば「物質的生産の量的拡大」から「質的・文化的な発展」へという転換として把握することができるのではないか。

すなわち狩猟採集段階においては、そうした成熟期への移行において、近年の人類学等で「心のビッグバン（または文化のビッグバン）」と呼ばれる現象が生じた。これは約五万年前に生じたと考えられる変化で、この時期の遺跡の発掘等から、装飾品や壁画などの芸術作品等、シンボリックな思考を示す事物が一気に現れるのである。³この時に人間にとって「文化」が生まれたと言つてよい。

狩猟採集社会において「言語」コミュニティは既に生まれており（ただし文字はない）、その後半たる成熟期・定常期に生成したのがまさにこうした「文化」の原初形態だった。私たち日本人にとって身近なところでは、たとえば縄文土器のもつ高度な芸術性や象徴性、その迫力を思えばよいだろう。

続く農耕段階では、おそらく農業文明が最初の環境・資源制約（森林の枯渇や土壌の浸食など）に直面したことを背景にして、紀元前五世紀前後に哲学者ヤスパースが「枢軸時代」と呼び、科学史家の伊東俊太郎が「精神革命」と呼んだ現象が起こる。これは

地球上の異なる地域において、普遍的な原理や人間にとつての内的価値を志向する思想・宗教群が「同時多発的」に現れたという現象をさしている（インドの仏教、中国での儒教・老荘思想等、ギリシャ哲学、中東の旧約思想（後のキリスト教））。

これは、農耕社会における文字コミュニティが複数出会うことを通じて、（個々のコミュニティを超えた）普遍的な原理を求めようになつた結果生まれた現象として理解できるのではないかと私は考えている。

さらに18世紀後半から、私たち人間は地下資源の大規模な利用ないし「搾取」を通じて、急速な工業化（ないし産業化）とそれに伴う経済や人口の急拡大を経験することになった。そして現在、これだけモノがあふれる時代となつて人々の物質的な需要は飽和し、また環境・資源制約が再び顕在化する中で、私たちは「第三の定常化」の時代を迎えようとしている。これは人間の長い歴史の中でのかなり稀有な時代であり、⁴そうした時代に遭遇できたことは奇遇といふべきことだろう。

そして重要なことは、先ほどから人間の歴史を急いで見てきた内容にも示されるように、定常化の時代こそ文化的創造の時代であるということだ。

ここでの「創造」とは次のような意味である。一般に「創造性」というと、「経済競争力」や「技術革新（イノベーション）」といったことと連動して考えられることが多い。けれども、発想を根本から変えてみると、これまでのような経済の「成長・拡大」の時代とは、実は市場化・産業化（工業化）・金融化といった、一つの大きなベクトルに人々が拘束・支配され、その枠組みの中でのものを考え行動することを余儀なくされていた時代と言えるのではないだろうか。だとすれば、⁵私たちがこれから迎へつつある定常化の時代とは、そうした、一つの大きなベクトルや「義務としての経済成長」から人々が解放され、真の意味での各人の「創造性」が発揮され開花していく社会としてとらえられるのではないだろうか。

それは、たとえばかつてレヴィ・ストロースが指摘した「ブリコラージュ（日常の中でのちよつとした創意工夫）」、歴史家ホイジンガが「文化は遊びに始まる」と論じる場合の「遊び」等々といった創造性のコンセプトにたつらなるものである。あるいはまた、それは「おばあちゃんの創造性」とも呼ぶべき高齢者の知恵や世代間継承性といった、人間の創造性についてのより深い理解に呼応するものだ。

先ほど、定期期とは「物質的生産の量的拡大」から「質的・文化的な発展」への移行の時期と述べた。こうした人類史的な文脈において、私たちは創造性や文化やコミュニティというテーマが相互に連動しつつ大きく立ち上がる時代をいま迎えようとして
いるのである。

(広井良典「なぜコミュニティなのか。どうしていま、文化なのか」による)

問一 空欄

a

s

c

にあてはまる語の組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマ

クせよ。解答番号は

1。

- A a だから b すなわち c さて
- B a すなわち b かしながら c さて
- C a すなわち b だから c かしながら
- D a だから b さて c かしながら

問二 傍線1「ネガティブな面」とあるが、その例として最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は

2。

- A 集団の規律のような「一つの大きなベクトル」に人々が拘束され、各人の自己確認の契機が脅かされること。
- B コミュニティ内での情報が飛躍的に増大し、情報を共有できない人々が疎外感を抱く可能性が存在すること。
- C コミュニティに属さなければ味わうことのなかった、他者に対する感情的な軋轢を覚える機会が生じたこと。
- D 本来、人々に安心感を与えるはずのコミュニティが、過度の経済競争力などを強いてくる場に変化したこと。

問三 傍線2「親から子へと」とあるが、「親子」と無関係なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は

3。

A 総領の甚六

B 鳶が鷹を生む

C 瓜の蔓に茄子はならぬ

D 青は藍より出でて藍より青し

問四 傍線3「この時に人間にとって『文化』が生まれたと言ってよい」とあるが、それはなぜか。理由として最も適切なものを次

の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は4。

A 言語によるコミュニケーションが複雑化し、新たな象徴言語が誕生したから。

B 人間の歴史において初めてとなる、「成熟化ないし定常化」の段階を迎えたから。

C 精神革命という生の根源的な意味を思考する潮流が、一気に誕生し深化したから。

D 狩猟採集社会の習俗からは全く逸脱した新しい視野が生み出され、定着したから。

問五 傍線4「そうした時代に遭遇できたことは奇遇というべきことだろう」とあるが、それはなぜか。理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は5。

のを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は5。

A “一つの大きなベクトル”に縛られることなく、各々が自由に思考することが可能となりつつあるから。

B 「第三の定常化」の時代こそ、これまでの人類の歴史が目標としてきたものであるから。

C “経済競争力”や“技術革新”という発想により、各人の自由が保障される時代が到来したから。

D コミュニティへの帰属が個人の創造力を拘束する、理想的な社会が目前に展開されているから。

問六 傍線5「私たちがこれから迎える定常化の時代」とあるが、なぜ私たちは「定常化の時代」を「迎える」と言うのか。その根拠として最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は6。

A 人類史のサイクルという観点から見て、現代は「物質的生産の量的拡大」から「質的・文化的な発展」への移行期に当たると考えられるから。

B 世界がグローバル化するなかで、現代は「経済競争力」や「技術革新」をなお一層追求することを余儀なくされている時代であるとみなせるから。

C 環境・資源制約がますます深刻化する一方、過剰にモノが溢れる現代は、人々の物質的な需要が飽和状態にあることはあまりに明らかだから。

D ひたすら市場化・産業化・金融化のみに邁進した時代が終焉を迎え、「義務としての経済成長」から現代の人々が解放されることは期待できないから。

問七 傍線6「文化は遊びに始まる」と論じる場合の「遊び」等々といった創造性」とあるが、その説明として最も適切なものを次

の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は7。

A 遊びは、集団内で相互に切磋琢磨し合いながら技術力を向上させる行為である点で創造的である。

B 遊びは、これまでにない新しい思い付きを当人に与える功利的な機会であるかぎり創造的である。

C 遊びは、つねに効率性を求められる労働との止揚を前提とする場合において創造的である。

D 遊びは、利害を超越した、自由で自己目的的な活動であるという意味で創造的である。

問八 傍線7「いま迎えようとしている」とあるが、それに当てはまらないものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

解答番号は 8。

- A 「第三の定常化」の時代
- B 産業化社会拡大・成長期
- C 産業化社会後期
- D 工業化社会成熟・定常期

(二) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

「普段着のファミリー」というと、素朴で正直で、飾りつけのない、好ましい家族のように受けとめられるかもしれないが、実は違う。ぼくがここで、表題にしてまで書こうとしている「普段着のファミリー」とは、社会に対しての適応性や、他人に対する最低限必要な緊張感や、時と場所を全く心得ない家族のことである。

もちろん、余所行き¹と普段着という区別での、着衣の普段着のことも含まれている。そもそもは、ある時ふと、伊豆から東京への移動の途中で見かける人々のことを、いつから日本人は普段着で旅行するようになったのだろうと、疑問に思ったことから発している。

思い出してみてもほしい。かつては、家と社会という意識がゲン然^①としてあつて、家から一歩出るとそこはもう社会であると思っていた。家の中では相当にダレた姿をしていますが、煙草を買いに出掛けるだけで社会用に、ジャケットの一枚も羽織ったものである。ぼくの父は必ず中折れ帽をかぶった。

家からほんの数メートル、同じ町内でもそうであつたから、他町村へ出掛けたり、ましてや東京へ出るとなると晴れ着に近い物を選んで、最大の誠意を示し、同時に社会という他者の垣塙^{かきづぼ}の中で緊張をもつて過せるように、覚悟を決めたものである。

それは実に面倒なことであつたが、これがよかつた。社会には自分で押し通せないことがいっぱいあり、時には他者に自分を合わせることも必要だと、教えられたからである。また、人間というのは個々大した存在ではないけれど、社会を尊重し、味方に引き入れることで、つまり着更^{きかへ}える毎^{ごと}に大きく見せることが出来るのだともわかつた。それを今、多くのファミリーは

X 放棄しているのである。

普段着の過信は、たぶん、マイカーを持つようになってからのことだと思う。人々は普段着で移動するようになった。自分の家の門前から、サンダル履きのまま東京都心へ直入出来る。楽で、便利であろうが、不法さのまま家族が移動し、不法さのまま他人の社会を踏むかと思うと、実に空恐ろしい感じがするのである。ファミリーはしっかりと不法法の同志となり、自由を

満喫する。満喫する方はいいだろうが、される方はたまったものではない。

ここでいう「自由」とは、他人の自由を奪う自由という意味で、戦後日本人が実践した自由とはこれだけである。他人の自由を奪う自由、これが普段着の精神性に取りついて、

Y

の自由として蹂躪する^{じゅうりん}のである。

たかが余所行きと普段着、着る物の選択で何ほどのことがあろうかと思われるかもしれないが、メリハリのつかない生活感が、メリハリのつかない社会観や人生観に繋がるのである。「個人」と「家族」と「社会」というたった三つの顔が出来ない人たちに、秩序や節度を期待することは無理であろう。²個の過信が社会を崩す。そのメリハリを、どこで失い、どこで放棄し、どこで平気になってしまったのであろうか。

ファッションや行動に自由が持ち込まれて喝采を博したのは、ついこの前のことである。ぼくもその時は、大いに手を打ち鳴らした。しかし、この自由を使いこなすには、相当に練り上げられた社会人としての教養、場を心得ることの出来る品性と、それぞれが内面に抱いたタブーが必要であった。それを考えないで使い放題の自由は、伝統も国情も個性もすべて打ち碎き、何でもありの、何でもなしにしてしまったのである。

ぼくがまだ若かった頃、東京という都市は大いなる踏み絵を強いる社会であった。長く東京生活をした後でも、しばらく離れ、また東京へ踏み込む時には、緊張を感じた。ここで生きられるだろうか、ここで認められるだろうかと何度も思った。東京とは、とても常態では勝負出来ない社会であったからである。だから、ぼくは、九州の実家から東京へ帰って来る時、小田原を過ぎたあたりから、ピシャピシャと頬を叩いて東京の顔をつくり、社会に立ち向かう覚悟を決めたものである。

これがもし、マイカーであったなら、そして、まるまるの普段着であったならどうであろうか。そんなことをする必要もなく、悠々と東京へ入る。その代わり、社会を意識してみる機会を失ったに違いないのである。

普段着のファミリーは、なぜ普段着で他人だらけの社会の中へ入って行くことが出来るのであろうか。個の顔で社会に立ち向かうのであれば、その度^②キョウと勇氣に感心してみせようが、社会の大きさを個のレベルに縮^③ショウし、恐れを知らず、行儀を知らず、

Y

になるのであれば、教育としては最悪である。社会の大きさと、手強^{てぢから}さと、人生には不可能の方が多いこと

を教えるのが教育で、それには普段着では役目を果たさないと知るべきなのである。

国の問題点を語る時、多くの人は、政治がどうの、経済がどうのというが、ぼくは国民の社会観の欠落と、それによる行儀の悪さ、公德心のなさが、最大の問題点だと思う。

行儀を問題にされないことは捨てられたのと同じことで、ぼくはつくづく、今の子どもたちが可哀相かわれまうに思える。手をかけただけ可愛い間が子どもで、手をかけても可愛くなくなれば、育ち過ぎたペットのよう^④に困惑する親を見かける。家出をする子どもがおり、さぞや心配だろうと思うと、不快のタネが見えなくなつてどこか安堵している親の顔があつたりする。

おぞましいことだが、今の社会を見ながら、つつい日本の子どもの滅びるさまを思い描いてしまうことがある。「親が汚す。先生が腐らせる。社会が増殖させる。時代の風が吹き散らす」、これでいいのだろうか。

今、大人それぞれがそれぞれの問題として、自分の生き方を変えなければならぬ時に来ている。政治家に何とかして下さいとか、法律を早く変えて下さいとか、待っている時ではない。一人一人である。一人一人が醜さと愚かさを自覚し、子どものための生きるサンプルになろうと覚悟を決めなければならない。普段着のことを長々と書いたのはそのためである。

政治家も悪いかもしれない。システムにも欠点があるだろう。しかし、政治家もシステムも、ぼくらが知恵と勇気で取り替えることが出来る。だが、市民とか国民とか、ぼくら普通の生活人を総取替えするわけにはいかない。だとすると、市民や国民が自分自身を甘やかさずに変えるしか、救われる道はないのではないか。

ぼくらは、「自由」も「平和」も「民主主義」も「経済大国」も、全部使い方を失敗した。宝の持ち腐れどころか、多くは徒あまとなつたのである。すべて光り輝く言葉の筈なのに、不作法さ、無遠慮さ、非常識、恥知らず、という結果しか出せなかった。

しかも、それで楽しいのならないが、閉塞感④に満ちた不機嫌な社会である。

もう一度、正直者の働き者、不器用な頑固者の原点に戻ってみよう。それしかない。

嗚呼ああ！

Z

さて、政治の社会ではマニフェストという具体的公約とやらが流行だが、人それぞれ、自らのマニフェストを作成してみたら

どうであろうか。何をなして、どう生きるか、何を信じて、誰を幸福にするかである。
 方法は、そう、宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」を下敷きに、替え歌の要領でやればいい。一本の道と自身の姿が見えるかもしれない。
 い。

(阿久悠「普段着のファミリー」による)

問一 傍線①②③のカタカナの漢字と同じ漢字を含むものを、また④の読み方として正しいものを、それぞれの群から一つ選

び、その符号をマークせよ。解答番号は①が 9、②が 10、③が 11、④が 12。

- | | | | | | |
|---|------|---|---------------------|---|----------|
| ① | ゲン然 | A | ゲン因を考える | B | 財ゲンを確保する |
| | | C | 私語 ^ク ゲン禁 | D | 無ゲンの可能性 |
| ② | 度キヨウ | A | キヨウ襟を開く | B | キヨウ力し合う |
| | | C | 富国キヨウ兵 | D | 交キヨウ曲 |
| ③ | 縮シヨウ | A | シヨウ学一年生 | B | シヨウ年犯罪 |
| | | C | お金をシヨウ費する | D | 父のシヨウ像画 |
| ④ | 閉塞 | A | へいさ | B | へいさく |
| | | C | へいさい | D | へいそく |

問二 傍線Ⅰ「余所行き」とあるが、余所行きの格好をすることに筆者はどのような意味があると考えているか。その説明として最も適切なものを一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 13。

A 父親のようにジャケットを羽織り中折れ帽をかぶることににより、家の中では感じることでできなかったおしやれをすることができ、それによつて精神を高揚することができるという意味。

B 余所行きの格好をしながら他町村へ出掛けると、余所者に対しても緊張を持つて迎えてくれ、また自分に対しても大人を尊重する視点を気軽に持つことができるという意味。

C 余所行きの服装は、普段着では味わえない社会の意識や緊張感を与えたり、また他人との距離感や関係を考えさせてくれたりする力を与えてくれるという意味。

D 余所行きの身なりをすることにより、家と社会との区別の意識を持つことができ、さらに社会という他者の中でも緊張感をもち社会の様々な自由を知ることができるという意味。

問三 空欄

X

にあてはまる言葉として、最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は

14。

- A 累々として
- B 悶々として
- C 綿々として
- D 得々として

問四 空欄 Y にあてはまる四字熟語として、最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号

は 15。

- A 面従腹背
- B 換骨奪胎
- C 四面楚歌
- D 傍若無人

問五 傍線 2 「個の過信」の説明として、最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 16。

- A 社会を尊重していれば居場所を失うことはないという自信
- B 余所行きの顔さえすれば自分らしさを失わないという自信
- C 社会の絆を失いさえしなければ自由でいられるという自信
- D 社会に出ても自分一人の力だけでやっていけるといいう自信

問六 空欄 Z にあてはまる作者の心情として、最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号

号は 17。

- A 腹が立つ。若者の墮落。
- B 戦後民主主義の爽快感。
- C 残念だが未来は来ない。
- D 気張り過ぎた。切ない。

問七 傍線3「雨ニモ負ケズ」の最終二行として正しいものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 18。

A ホメラレモセズ

クニモシナイ

B サウイフモノニ

ワタシハナリタイ

C ヨクミキキシワカリ

ソシテワスレズ

D 雪ニモ夏ノアツサニモマケヌ

丈夫ナカラダヲモチタイ

問八 次の中から本文の内容と最も合致するものを一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 19。

A 行動や衣装の自由化には素晴らしい面もあったが、その自由をきちんと使いこなすだけの社会人としての教養や品性、そして心の内にタブーを持たなければならない。

B 国の問題点には政治や経済や社会など多くあるが、それとともに国民の行儀や公德、心の問題もある。しかし、そのような問題は政治的な問題の影に隠れてあまり問題にされていないのは残念である。

C 戦後の日本人が獲得し実践したのは他人の自由を奪う自由の精神でしかなかったが、しかし、その後メリハリがないとは言え平和や民主主義を獲得したのは誇って良いことである。

D 今の日本人に求められているのは正直者の不器用なまでの頑固者であるが、それを得るためには宮沢賢治の「雨ニモ負ケズ」の替え歌をマニフェストにし実践するしかない。

(三) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

人知れず思へばうける言の葉もつひに α のたのもしきかな

これは、^{*}惟規（のよりのり）といふ歌よみの、女のがり、つかはしたりける歌なり。この歌の心は、もろこしに、呉松孝といひける人の、宮中の内より流れいでたる、川の流れにあそびけるに、詩を作りて書きたりける木の葉の、流れて下りけるを見つけて、とりて見れば、柿のみみぢの赤かりけるに、詩を書きたりけると、思ひけるより後に、女の手と見えければ、いかなる人、作りて書きけむと、¹この人ゆかしさに、思ひになりて、²すべきやうも覚えざりければ、その詩の和を作りて、おなじ柿の葉に書いて、その川の、水上に流しければ、九重のうちに、流れいりにけり。その後、恋しきたびに、この柿の葉の詩を、とりいでて、泣くよりほかの事なかりけり。さて、年月をふる程に、かの、宮の内のうちこめられて、ア 年を送る女、このかず、あまりつもりぬれば、「いとほし。われをたのみて、イ 年を送る。いとほしき事なり」とて、³せうせうをば、おのおの親に返して、⁴とこをもせさせむとて、返し給ひけり。その人に、かの松孝をば、むこにとりつ。松孝、柿の葉に詩を書きたる人のみ、恋しくて、いかにも、⁵こと事せむとも覚えざりけれど、親のする事なれば、心にもあらで、むこになりにけり。この女の、思ふさまにて、あはれに心ぐるしかりければ、かの、あけくれ恋ひ悲しびけるも、やがて、思ひ忘れて、ふと程に、女のいひけるは、「我が、物思ふ人のけしきにて見えしは、いかなる事ぞ。ねがはくは、われに隠す事なかれ」。松孝、答へていはく、「われ、昔、宮のほかにして、川の流れにあそびき。水の上に、木の葉のあるを見れば、女の手蹟にて、ひとつの詩を書けり。それを見て、今日今に忘るる事なし。しかはあれど、君に、かく親しくなりて後、ことのほかに、思ひなぐさめるなり」といへり。女、これを聞きて、「その詩は、いかがあり X。また、その詩の和かつくりたり Y」⁶といひければ、「しかありき」と、いらへければ、女、この事を聞くに、涙さきにたちて、契りのおろかならぬことを、知りぬ。「その詩は、みづからの詩なり。和の詩、わがもとにあり」といひて、おのおの、とりいでたるを見れば、互に、我が手にて見ゆるを見るに、おぼろけの契りには、

あらざりけりといへる事を知りぬ。「そもそも、いかにして、われが詩をば得し」「この身、ウ して、月日を送る事を嘆

きて、川のほとりにあそびき。いはのはざまに、流れとまりたる木の葉を見れば、ひとつの詩あり。もし、ありし我が詩を見ける人の、作れると思ひて、おきたりつるなり」とぞ申しける。これを聞けば、妹背のなからひ、さきの世の契りの、おろかならぬより、思ひよる事なれば、あし、よしとも、さだむべきにもあらず。

(『俊頼髓脳』による)

注

* 惟規……藤原惟規か。そうであれば、紫式部の兄弟にあたる。

* 和……答える詩。唱和する詩。

* をとこをもせさせむ……婿取りでもさせよう。

問一 空欄 α に入る語として最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 20。

- A 逢瀬 B 先世 C 妹背 D 宮居

問二 傍線Ⅰ「この人ゆかしさに」の解釈として最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 21。

- A この詩を作った女性は呉松孝のことをいとしく思ったので
B 呉松孝はこの詩を作った女性のことを知りたい会いたいと思ったので
C 惟規はこの詩の作者についてもっと聞きたくなかったので
D この詩の作者はどうしてこのような内容の詩を作ったのかと同情したので

問三 空欄 ア ウ に共通して入る語として最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解

答番号は 。

- A あながちに
B つれづれに
C いたづらに
D はなやかに

問四 傍線2「せうせう」に当てる漢字として最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 。

- A 少将
B 少々
C 上々
D 相丞

問五 傍線3「こと事せむとも覚えざりけれど」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解

答番号は 。

- A ことさらに自分の思いを伝えたいなどとは思っていなかったのだが
B ことあるごとに何とか自分の思いを伝えようと思っていたのだが
C いろいろな人生経験を試みてみたいなどは考えてもみなかったのだが
D 他の女性に関心を持つとうなどは思いもしなかったのだが

問六 傍線4「心ぐるしかり」とあるが、そう感じた理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

解答番号は 。

- A 夫が別の女性のことをいまだに気にしていることを察していたから
B 自分がかつて宮中で帝に仕えていた身であることを夫に隠していたから
C 自分の本意ではなく、親を喜ばせるために今の妻と結婚したという負い目を感じているから
D 心中では別の女性に思いを寄せながら結婚したにもかかわらず妻が献身的に自分に尽くしてくれるから

問七 空欄

X

Y

に共通して入る語として最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 26。

A き

B し

C けむ

D けめ

問八 傍線5「手」とあるが、この「手」と同じ意味で用いられている例として最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号

をマークせよ。解答番号は 27。

A 「子となり給ふべき人なめり」とて、手にうち入れて家へ持ちて来ぬ。〔竹取物語〕

B 通憲入道、舞の手の中に興あることもどもを選びて、磯の禪師といひける女に教へて、舞はせけり。〔徒然草〕

C この手の大將軍は何者ぞ、名乗れや。〔保元物語〕

D 梅の花さかりなるを折りて、その花びらにいとをかしげなる女の手にて書けり。〔大和物語〕

問九 本文の内容についての説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 28。

A 呉松孝は、宮中の女性が自分に宛てた詩を書いた木の葉を手にしてからというもの、その人のことが恋しくて何も手に付かなくなり、涙を流して毎日を過ごしていた。

B 結婚した呉松孝は、献身的な正妻ができたことでそれまで恋しく思っていた女性のことを少しづつとましく思うようになつていった。

C 呉松孝の妻は、別の女性をこれまで愛しく思ってきたという夫の告白を聞いて、夫婦の契りを今こそおろそかには扱えないと悟った。

D 筆者は、夫婦の間柄は前世から決まっていることなので、現世で結ばれたことをよいとも悪いとも決めるべきではないとしている。

問十 『俊頼髓脳』を著した源俊頼は、勅撰集『金葉和歌集』の撰者でもある。勅撰集を次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

よ。解答番号は 29。

A 『後拾遺和歌集』

B 『山家集』

C 『和漢朗詠集』

D 『金槐和歌集』